

授業にピタッ！とデジタル教科書

地理

② 日本の諸地域の学習でのデジタル教科書活用例 ～地形図で街の変化をとらえる

(国立大学附属中等教育学校 教諭)

◆**単元名**：第3編 日本のさまざまな地域 第3章 日本の諸地域 2節 中国・四国地方

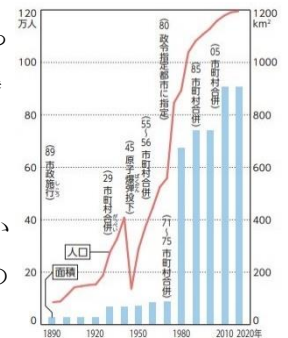
「②中国・四国地方の中心 広島市」(教科書 pp.192-193)

◆**本時の目標**：

中国・四国地方の地方中枢都市である、広島市の都市化によって起こる課題について理解する。地形図の新旧比較から、広島市の都市の発達について歴史的な変化を読み取ることができる。

《本時の展開例》

	学習活動	留意点	デジタル教科書・教材
導入 (5分)	<p>【問】この写真(p.193 資料④)は今日の授業の舞台となる都市です。この都市はどこだろう？</p> <p>●第2章「③変化に富む日本列島の地形(2)」(pp.154-155)で学習した日本の地形を復習し、次に p.188 資料③に注目させる。</p> <p>【問】広島市の地形の特徴は？</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・原爆ドームが背景に写っていることから、多くの生徒が広島と気づく。 ・画面下方に海が見えることを強調し、三角州と扇状地の違いを整理する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・デジタル教科書 p.193 資料④の写真をタイトル表示せずにスクリーンに投影する。 ・デジタル教科書 p.188 資料③の写真をスクリーンに投影する。
展開 (35分)	<p>●教科書に掲載された地形図を参照し、広島市の変化をグループごとにとらえさせる。</p> <p>【問】1898年ごろの広島市(広島市)の地形図を見て気づくことは？</p> <p>【問】その後、広島はどのように変化したか、地形図から変化を読み取ろう。</p> <p>【問】地方中枢都市(教科書タイトル「中国・四国地方の中心」を確認)となった広島市はどのような課題を抱えるようになったのか？</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・軍都「広島」の発展を解説する。 ・デジタル教科書の収録データをもとに資料(1898、1950、2012年の地形図)を作成し、配付する。 ・グループで地形図の変化を読み取る。生徒の意見を板書する。 ・原爆投下により「ヒロシマ」がどのような被害を受けたか、その後どう復興したかを解説する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・デジタル教科書 p.192 資料①をスクリーンに映す。 ・p.193 資料③のスライド機能を活用し、2枚の地形図を並べ、両者をスライドさせながら比較する。 ・p.192 資料②(下図)を映し、折れ線グラフからは1945年の原爆投下による人口減少を確認する。さらに棒グラフからは市域の拡大の様子を確認する。
まとめ (10分)	<p>●2014年の土砂災害の背景について考える。</p> <p>【問】広島市の人口増加により、宅地開発されたのはどのような地域だろうか？</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・宅地開発と土石流の被害の関連について確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地理院地図で広島市安佐南区の自然災害伝承碑の位置を生徒に提示し、2014年8月豪雨に関する伝承碑がみられることを確認する。



◆指導にあたって：

- 地理的分野の授業では、地形図や統計の活用など資料活用能力を高めさせることも目標の一つとしてい。教科書には、1898年、1950年、2012年の地形図が掲載されており、デジタル教科書のデータを活用することで、広島市の地域の変化をとらえることができる。本時では、既習事項である日本の地形の復習から広島市へとつなげ、授業を展開することを意図した。
- 生徒たちの話し合いは、グループごとで行う。教師は机間巡視により、各グループの話し合いの様子を把握し、生徒の学びが深まっているかどうかを観察し、適宜助言を与えるようにしたい。
- 国土地理院は、新しい地図記号「自然災害伝承碑」(右図)をつくり、2019年6月から地理院地図上で公開した。
広島市の拡大とともに、市街地が丘陵地に広がったが、2014年8月の豪雨で発生した土石流により、多数の犠牲者を出すことになった。都市開発の問題点についても新聞記事などを活用して、生徒に考えさせたい。

→「自然災害伝承碑」
の地図記号



◆デジタル教科書活用のねらい：

- デジタル教科書では、写真など資料のタイトルを表示させずに生徒に提示できる点を有効に活用したい。
- 地形図のスライド機能(p.193)を上手に活用し、生徒の意見を学級全体で共有できるようにして、グループワークの意義を生徒に実感させるとよい。デジタル教科書の活用により、日常の授業での「主体的・対話的で深い学び」は実現しやすくなるのではないだろうか。



↑スライド機能をはたかせた場面(「1950年ごろ、2012年ごろの広島市」)

◆授業の改善案・さらに活用するポイント：

- 広島市の土砂災害が、都市化とどう関わっているのかを考えさせることで、教科書の記載事項を深めることができる。
- 歴史的分野の学習との関連づけにも留意したいところである。年間指導計画を工夫して、「日清戦争」と軍都広島形成や被爆都市ヒロシマの被害についてもとらえることができるとよい。

★地形図のスライド機能

- ・同一場所の変化を読み取ることができる。
…画面下のバーを左右にスクロールすると、2枚の地形図の同じ場所が左右にスライドする。
- …河川の流路など、あらかじめ注目するポイントを決めるのもよい。
- ・教科書掲載の地形図の範囲よりも広範囲が掲載されている。
…画面横のバーを上下にスクロールすることも可能。